

2025 年 5 月 13 日

各位

会 社 名 株式会社ダイフク
代 表 者 名 代表取締役社長 下代 博
(コード：6383 東証プライム)

会 社 名 株式会社JDSC
代 表 者 名 代表取締役 加藤 エルテス 聡志
(コード：4418 東証グロース)

**ダイフク、JDSCとDXに関する戦略的パートナーシップを締結
物流・生産現場の課題解決へ、高度な自動化技術の開発などを加速**

株式会社ダイフク（本社：大阪市西淀川区、代表取締役社長：下代 博、以下「ダイフク」）は、株式会社JDSC（本社：東京都文京区、代表取締役：加藤 エルテス 聡志、以下「JDSC」）と、戦略的パートナーシップを締結したことを発表します。本締結により、AI技術の活用やデジタルトランスフォーメーション（DX）の推進およびデジタル分野での人材育成を加速し、高度な自動化ソリューションを提供していきます。



株式会社ダイフク代表取締役社長下代 博（左）、株式会社JDSC代表取締役加藤 エルテス 聡志（右）

ダイフクグループは、「モノを動かす技術」であるマテリアルハンドリング（マテハン）システムで物流や生産現場などの社会インフラを支えてきました。そして2030年のありたい姿を定めた長期ビジョン「Driving Innovative Impact 2030」を策定し、食や環境などの新たな領域でも社会課題解決に貢献することを掲げています。この実現にはAIなどの先端技術の活用やDXの推進が不可欠となることから、AI開発やデータ活用によるDX支援実績を多数保有するJDSCと連携します。なお、ダイフクとJDSCは2023年4月から、人材育成などですでに連携を進めています。両社による具体的な取り組みは以下の通りです。

① 先端技術戦略の立案・推進および実現手段の進化

ダイフクグループ全体の技術水準と競争力の向上を目指し、想定する10～20年先の社会像から、研究開発に着手すべき技術の選定とシステム開発を推進します。

② 革新的なマテハンシステムの開発に向けた協働

一般製造業・流通業向け、半導体生産ライン向け、自動車生産ライン向け、空港向けの各事業の付加価値を向上する、未来を見据えた新たな発想のマテハンシステムおよびそのために必要なシステムの開発を計画・実行します。

③ 全社共通課題の解決に向けた各事業部共通の要素技術・アルゴリズム開発

ダイフクグループ社内の業務高度化・効率化に向けて、JDSCが有するAI・アルゴリズム開発能力を活用します。

④ データ活用人材育成プログラム「D-Adapt※」の推進とさらなる進化

ダイフクが国内主要拠点で段階的に進めているプログラムに加え、さらに専門性の高いプログラムへの拡張、国内外の拠点への展開を推進します。研修と実務を通じて、2030年までに社員の10%をデータサイエンティストに育成することを目指しています。

※Daifuku AI & Data science Advanced Pursuit Trainingの頭文字

株式会社ダイフク 専務執行役員 CTO ビジネスイノベーション本部長 権藤卓也のコメント

ダイフクグループがさらなる成長を遂げるためには、最新の技術を採用し、新たな価値の創造やイノベーションを起こさせる変革が必要です。JDSCの協力のもと、変革に必要なデジタル分野での人材育成やAI/データを活用した先端技術の開発などを推進してまいります。

株式会社JDSC 常務執行役員COO 佐藤飛鳥のコメント

当社はこれまで、製造・物流などの業界を対象に、AI/データ活用を中心とした手段を用いて、さまざまな変革を支援してきました。本パートナーシップを起点に、ダイフクの持つノウハウにJDSCの技術をかけ合わせて、社会課題の解決を加速し、産業自体のUPGRADEに貢献してまいりたいと思います。

■株式会社ダイフクについて <https://www.daifuku.com/jp/>

ダイフクは、1937年の設立以来、モノを動かす技術（マテリアルハンドリング）を事業の根幹とし、物流や生産現場などの合理化を追求してきました。現在、世界24の国と地域に生産・販売拠点を設け、海外売上高比率は約70%に達しています。昨今、人手不足や生産性向上の課題解決につながる重要な社会インフラとして、マテリアルハンドリングシステムに期待が高まっており、これらのニーズに応えるため、ダイフクグループは常に次世代の物流・生産合理化システムを先駆けて開発する企業であり続け、社会の発展につながるソリューションを提供してまいります。

■株式会社JDSCについて <https://jdsc.ai/>

JDSCは、製造、物流、エネルギー、ヘルスケア、公共など、基幹産業を中心とした多様な業界の企業との連携・協業を通じて、社会課題や産業共通課題の解決による日本のアップグレードに貢献します。一気通貫型の高付加価値なAIソリューション開発を強みとし、アルゴリズムモジュールの開発とライセンス提供事業、ITシステムの開発と運用事業、データサイエンスに関するビジネスマネジメント事業を行っています。

【本件に関するお問い合わせ先】

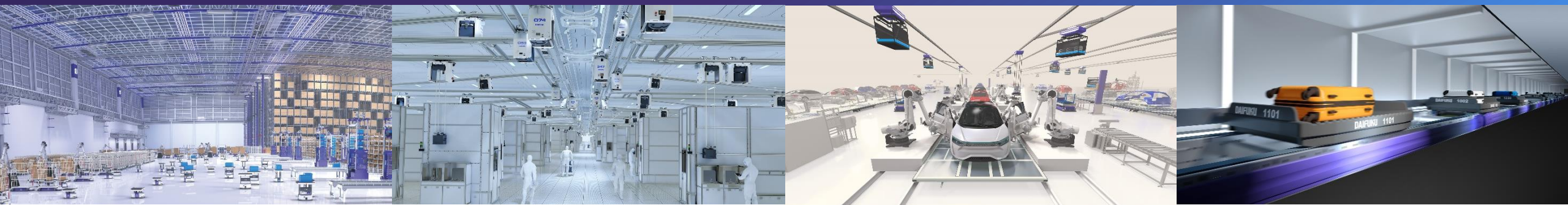
株式会社ダイフク 広報部

TEL：03-6721-3505

以上

ダイフク × JDSC

戦略的パートナーシップの締結について（補足資料）



DAIFUKU



JDSC

「モノを動かす」技術 で

- 物流や生産現場などの社会インフラを支える
- 食や環境などの新たな領域で社会課題解決へ貢献する

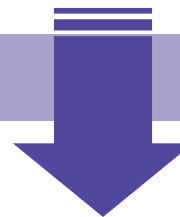
ミッション
ビジョン

- 製造、物流といった基幹産業を中心に、社会課題や産業共通課題の解決による日本のUPGRADEに貢献

- マテハンのリーディングカンパニーとしての豊富な知見・製品・ソリューションと課題解決ノウハウ

知見
強み

- DX・データ活用・AIに関する豊富な技術知見
- 大手企業との協業で産業全体を変革するビジネスモデル



物流や生産現場の変革を通じた産業全体の革新・UPGRADE

全社横断プロジェクト

JDSCとの協働（2023年以降）

これまでの成果

先端技術戦略
立案・推進

**現場の思考と行動を引き出す変革
共創の推進**
ダイフクのCTOや100名を超える社員、そして、JDSCのコンサルタント、データサイエンティスト、開発エンジニア、物流・製造エキスパートが一丸となり、計600回以上の議論を通しダイフクの変革に必要な取り組みを探索・実行

AI開発・推進

変革のコアとなる組織基盤づくり
総額800億円の戦略投資も活用し、現場社員が主導する各プロジェクトを通じて、自ら変革を起こすためのマインドセットやAI・機械学習などの活用手法を体得（共同開発）、D-AdaptプログラムによるDX人材育成

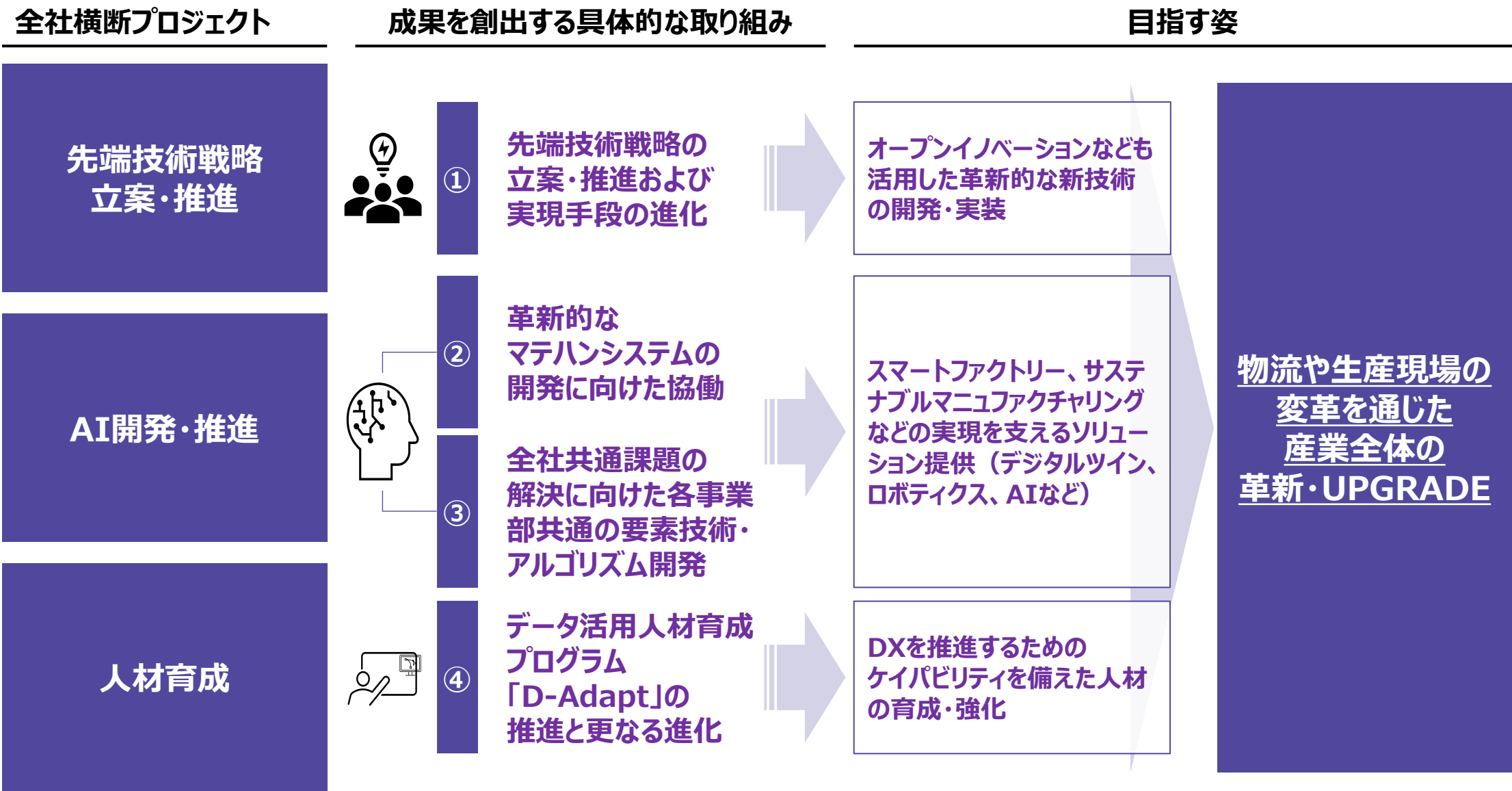
人材育成

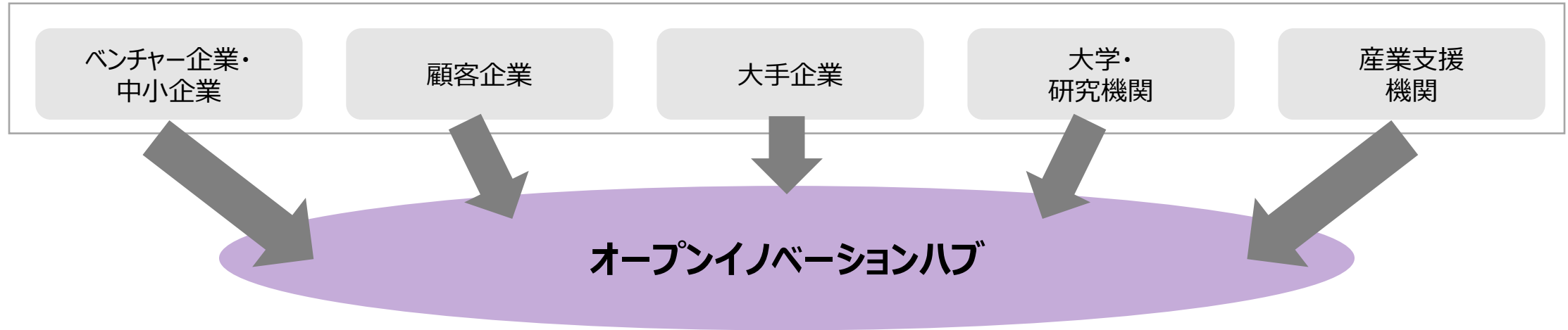
長期ビジョンのありたい姿と
中期経営計画の目標の実現に
向けた、重点課題の抽出

全社共通課題の解決に向けた、
要素技術開発
（類似障害情報検索・
AIチャットボットなど）

国内全4拠点、
合計70名に向けた
データサイエンティスト基礎
スキル獲得カリキュラムを
実施

変革に必要な
全社的な
機運の醸成





DAIFUKU

物流・製造領域における技術・研究開発能力

顧客との信頼関係を基盤とした、
技術の社会実装力

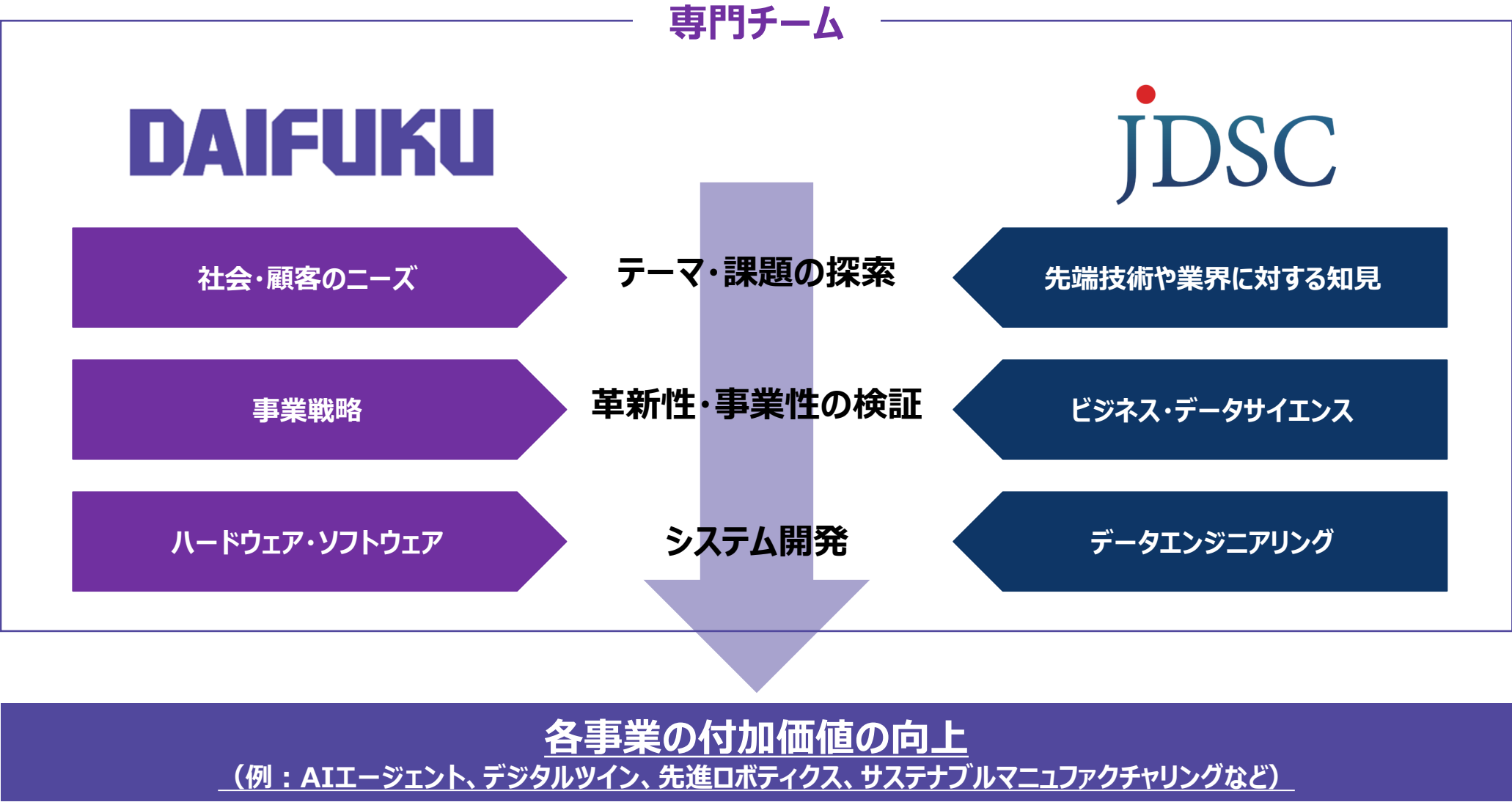
JDSC

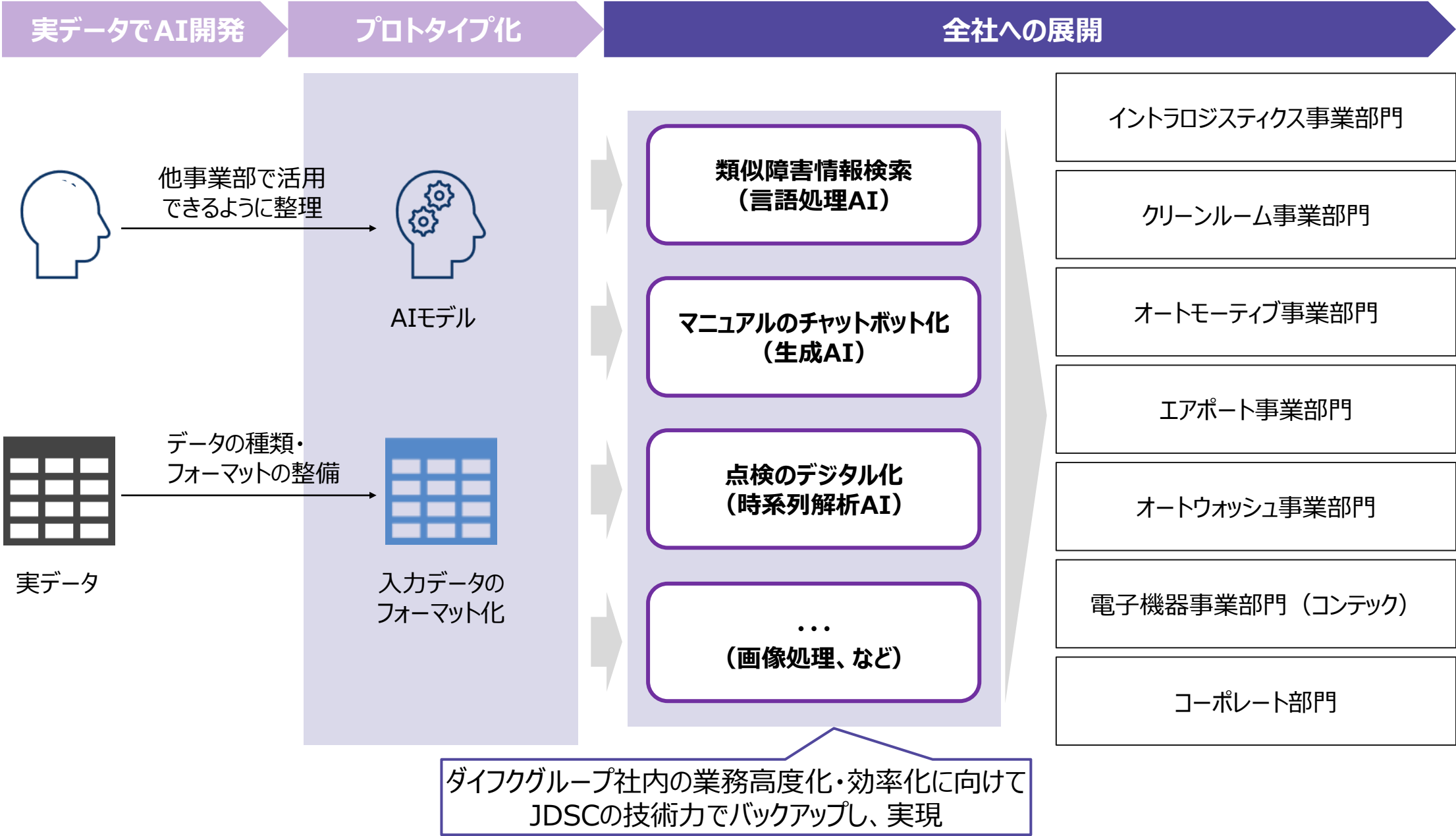
DX・データ活用・AIに関する豊富な技術知見

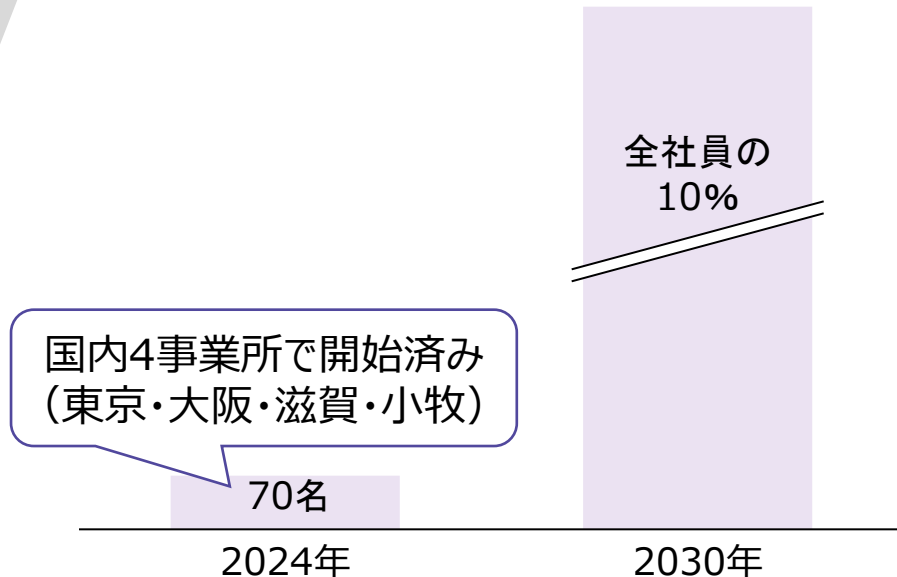
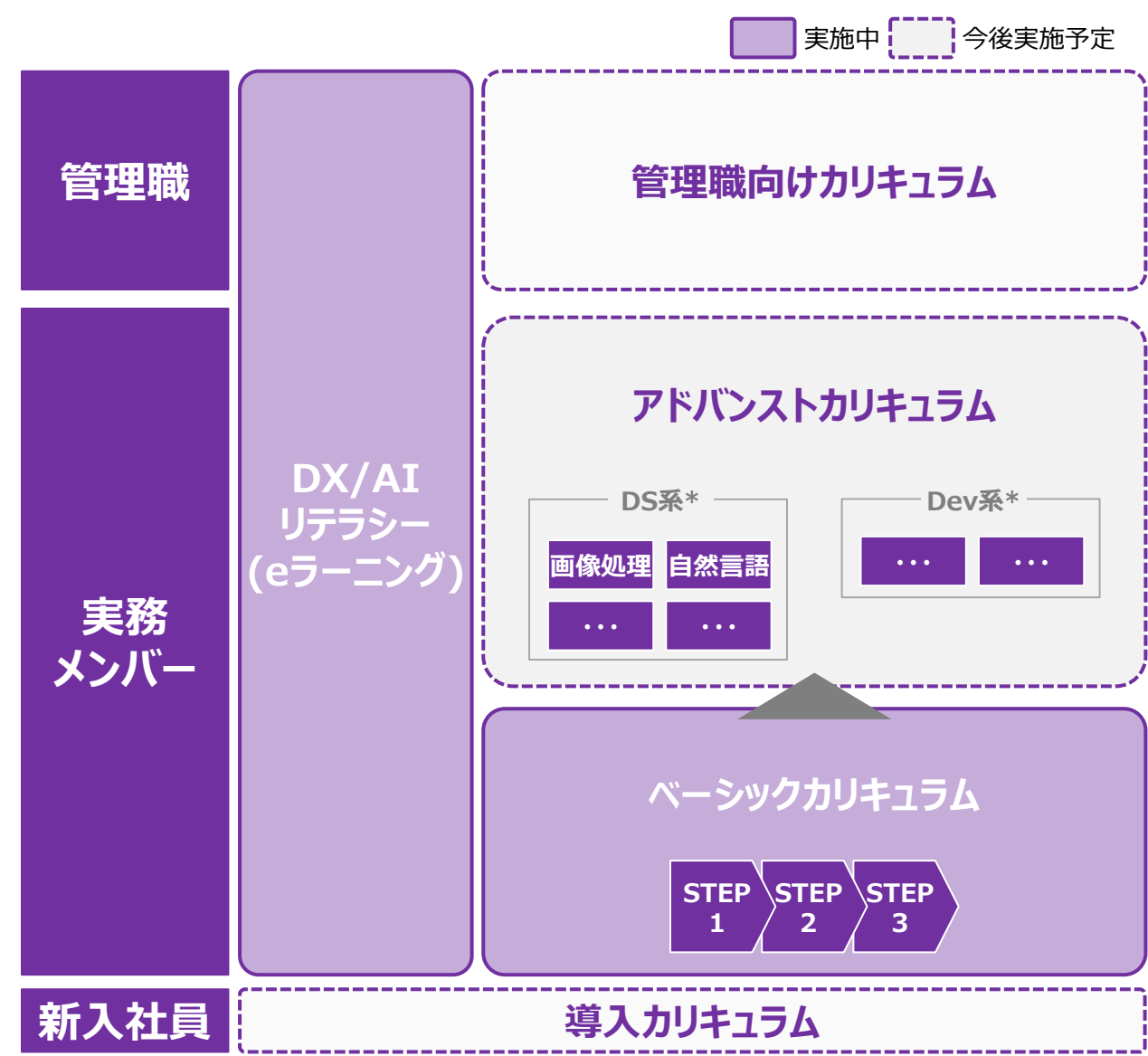
業界主要企業や産業全体をUPGRADEしていく
ノウハウ

研究開発を加速・推進

ダイフクが目指す、物流や生産現場の変革に資する新技術などの開発







*DS : Data Scientist
*Dev : Development(アプリ化実装技術)

DAIFUKU

The logo for JDSC, featuring a red dot above a lowercase 'j' followed by the letters 'DSC' in a blue serif font.